

令和2年（ヨ）第35号 四国電力伊方原発3号炉運転差止仮処分申立事件

債権者 山口裕子 外6名

債務者 四国電力株式会社

準備書面7

(債務者の令和3年3月15日付け回答書を受け)

2021年5月6日

広島地方裁判所民事第4部 御中

債権者ら代理人弁護士 河 合 弘 之

弁護士 胡 田 敢

ほか

本書面において債権者らは、債務者の令和3年3月15日付け回答書における債務者の主張は、本件原発の基準地震動が不合理であり、本件原発の運転が極めて危険であることを自認するに等しいことを主張するものである。

目次

1	はじめに	2
2	主張立証の経緯.....	2
3	南海トラフ地震.....	3
4	過去の地震記録との対比.....	6
	(1) 問題点	6
	(2) 最大加速度200ガル以上の地震及び検討対象地震.....	7
	(3) 近年の地震との対比.....	7

5	地震観測記録の分析等.....	11
(1)	各地震の分析.....	11
(2)	規制基準の合理性，審査過程における過誤・欠落について.....	13
(3)	本件原発の基準地震動の合理性について.....	15
(4)	結論.....	16

1 はじめに

債務者は令和3年3月15日付け回答書において、「南海トラフ地震が起き、しかもその強震動生成域を伊方原発直下に想定したとしても伊方原発で想定できる地震動は181ガルにすぎない」という債務者の主張を明らかにした。

マグニチュード9に達する可能性もある巨大地震である南海トラフ地震が起き、しかも、その強震動生成域を伊方原発直下に置いたとしても伊方原発の解放基盤表面で想定できる地震動が181ガルにすぎないという債務者の主張は驚くべきものである。

この債務者の主張は、これだけを取りあげたとしても、債務者の地震動想定に全く信用性がないことを示している。このことは同時に、650ガルを基準地震動とする本件原発の運転が極めて危険であることを示している。以下、説明する。

2 主張立証の経緯

債務者は答弁書309～310頁において、「最大クラスの地震である南海トラフの巨大地震を敷地直下に想定しても、本件原発に到達する地震動はあまり大きなものにならない」と主張した。そして、その理由を「原発の敷地から南海トラフ地震の震源までの深さが約41キロメートルあるので地震動が減衰するから」とした。

これに対して、債権者らは債権者準備書面2の18ないし21頁において、「債務者の上記主張は実際の地震記録に基づく理由がない」として我が国の

地震記録に照らすと債務者の主張に理由がないことを指摘したところである。

債権者らはこの指摘において、債務者が言うところの「本件原発に到達する地震動はあまり大きなものにならない」とされた地震動が中央構造線の活断層に係る想定地震動650ガル（これが本件原発の基準地震動とされた）を下回るものとはいえ、それに近い加速度を指すものであると解した上で、反論をした。その時点では、債権者らは、まさか、南海トラフ地震のしかも強震動生成域を伊方原発の敷地直下においた上での伊方原発に到来する地震動について債務者が650ガルを遙かに下回る181ガルという地震動を想定していたとは思いもしなかった。それ故に、債権者らが債権者準備書面2の18ないし21頁において債務者への反論をするに当たり、650ガルを若干下回る地震動を念頭においた反論をしてしまったのである。また、従前の本訴及び仮処分においては、伊方原発の基準地震動650ガルが中央構造線に係る地震（内陸地殻内地震）想定に基づくものであったため、プレート間地震である南海トラフ地震に充分注目しなかったことや、学術論争に力を注ぎ実際の地震記録と対比するという観点がなかった。そのことから、本件仮処分が申し立てられるまで、「南海トラフ地震による地震動想定が地震記録に照らし合理性に欠けるのではないか」という指摘がなされることはなかった。

そこで、令和3年3月15日付け回答書によって債務者が想定する南海トラフ地震に係る地震動が181ガルであることが明らかにされたことから、あらためて債務者の主張する181ガルという地震動が過去の地震記録に照らして、全くあり得ない地震動であることを主張立証することとする。

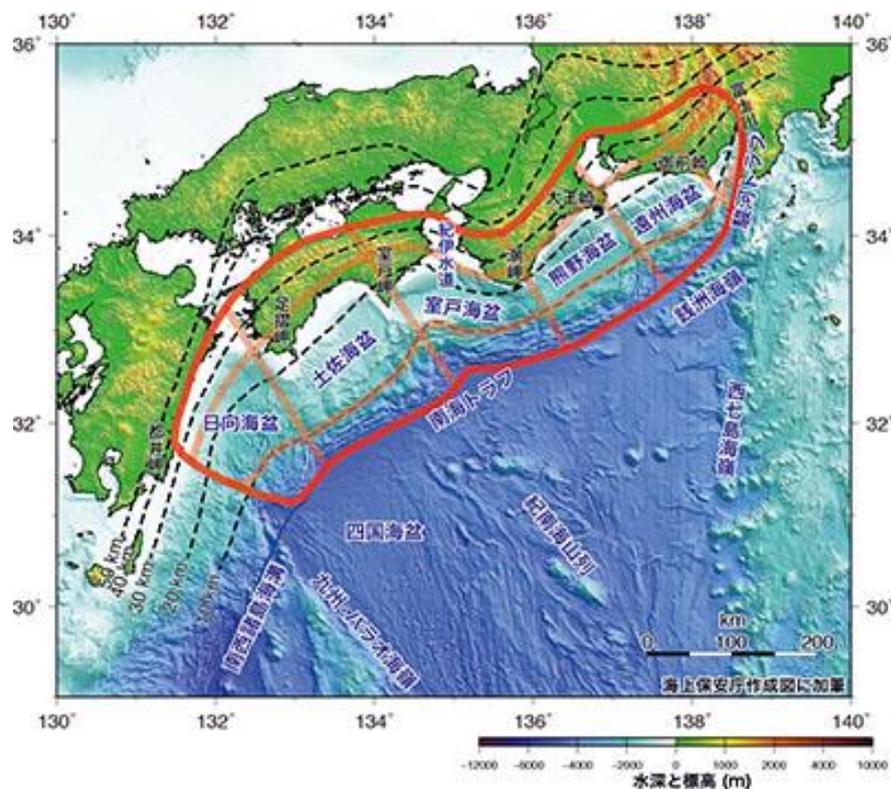
3 南海トラフ地震

南海トラフ地震の正確な規模、その発生確率、被害の大きさについては諸説あるが、我が国における地震に関する最高の権威とされている文部科学省の機関である地震調査研究推進本部（以下「推進本部」という。）は、下記の見解を示している（甲第73号証）。

記

「南海トラフは、日本列島が位置する大陸のプレートの下に、海洋プレートのフィリピン海プレートが南側から年間数c m割合で沈み込んでいる場所です。この沈み込みに伴い、2つのプレートの境界にはひずみが蓄積されています。過去1400年間を見ると、南海トラフでは約100～200年の間隔で蓄積されたひずみを解放する大地震が発生しており、近年では、昭和東南海地震（1944年），昭和南海地震（1946年）がこれに当たります。昭和東南海地震及び昭和南海地震が起きてから70年近くが経過しており、南海トラフにおける次の大地震発生の可能性が高まってきています。

過去に南海トラフで起きた大地震は多様性があります。そのため、次に発生する地震の震源域の広がりを見極めることは、現時点の科学的知見では困難です。地震本部では、南海トラフをこれまでのような南海・東南海領域という区分をせず、南海トラフ全体を1つの領域として考え、この領域では大局的に100～200年で繰り返し地震が起きていると仮定して、地震発生の可能性を評価しました。



○ 将来の地震発生の可能性

地震の規模 : M8～M9クラス

地震発生確率 : 30年以内に, 70%～80%

地震後経過率 : 0.85

平均発生間隔 : 88.2年

南海トラフ全体を1つの領域として考え, この領域では大局的に100～200年で繰り返し地震が起きていると仮定して, 地震発生の可能性を評価しました。」(甲第73号証)

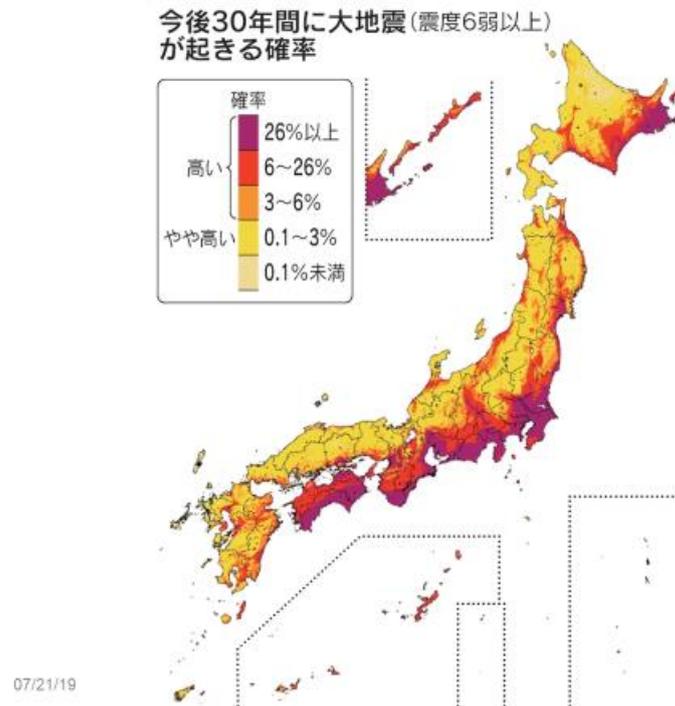
また, 推進本部は, 本年3月26日, 今後30年間に大地震(震度6弱以上)が起きる確率を示した次の地図を公表し(甲第74号証の1), 地震調査委員会委員長で防災科学技術研究所の平田直参与は「この地図は, 日本では強い揺れに襲われない地域は無いということも示している」と説明した(甲第74号証の2)。



(甲第74号証の2より抜粋)

この地図において, 四国から紀伊半島を経て静岡県にかけての地域に震度6弱以上の地震が起きる確率が高いとされているのは, 上記南海トラフ地震の地震規模, 発生確率に照らすと同地震の発生のおそれが要因となっていると考え

られる。



(甲第74号証の1より抜粋)

南海トラフ地震が愛媛県にどの程度の地震動をもたらすのかは強震動生成域の中心が海域にあるか、陸側にあるかによって異なると思われるが、伊方原発敷地直下に強震動生成域を置いた場合には、愛媛県の多くの地域が震度7の地震に襲われると考えられる¹。南海トラフ地震による被害は四国を含む広範囲の国土に及びその人的被害も経済的損失も極めて甚大であるとされていることは公知の事実である。

以上を要するに、南海トラフ地震はその規模においても、被害の大きさにおいても、発生確率の高さにおいても我が国で最も恐れられている地震なのである。

4 過去の地震記録との対比

(1) 問題点

地震規模及び被害の大きさ並びに発生確率の高さにおいて、我が国で最も

¹ 甲第39号証の15頁によれば、愛媛県は南海トラフ巨大地震の想定地震について県内全域に震度6強以上の地震動が到来し、極めて広範囲に震度7の地震動が到来することを予想している(申立書78頁参照)。

恐れられている南海トラフ地震の強震動生成域を伊方原発敷地直下に想定した場合でも、伊方原発敷地に到来する地震動が181ガルにとどまるということはほとんどあり得ない。前記債権者準備書面2の18ないし21頁と一部重複するが、これを詳細に述べる（別紙1-1, 1-2も債権者準備書面2と同一のものを付する）。

原発の基準地震動は解放基盤表面（地下の固い岩盤の表面）を基準とし、解放基盤表面が地下深くにある原発も少なくない。しかし、伊方原発においては解放基盤表面が、地表面に位置することから地表面に置いた地震計によって測定した過去の地震記録と容易に比較対照できる。

ただし、伊方原発の基準地震動である650ガルも、債務者が南海トラフ地震で伊方原発を襲うであろうとする181ガルの地震動も東西、南北の2成分合成で示されるのに対し、地震の観測記録は東西、南北、上下の3成分合成によることが多く、3成分合成の方がやや高い数値を示すことに照らし、以下650ガルの地震動に対応するものとし地震記録上700ガルの地震動、181ガルの地震動に対応するものとして地震記録上200ガルの地震動をそれぞれ考慮の対象とした。

(2) 最大加速度200ガル以上の地震及び検討対象地震

2000年以後の700ガル以上の最大地震動を記録した主な地震は29回に及んでおり（別紙1-1及び後記②③の2つの地震）、震度5弱以上を記録した地震のうち最大加速度が200ガル以上の地震動を記録した地震は優に170回を超えている（別紙1-2）。

これらの地震のうち、(3)において近年発生した比較的規模の大きな地震、(4)においてプレート間の巨大地震における地震記録に照らして債務者が想定する181ガルという数値が合理性を有するかどうかについて検討する。

(3) 近年の地震との対比

① 2018年9月6日の北海道胆振東部地震は、M6.7で、震源の深さが37キロメートルで、債務者が想定する南海トラフの震源の深さ41キ

ロメートルと大差ない地震であった。この震源の深さ41キロメートルという深さは、別紙1-2をみれば、債務者が主張するような特に深い地震ではなく、震源の深さとしては普通の地震であることが確認できる。

K-NETデータベースによれば²、北海道胆振東部地震は最大加速度1796ガル（小数点以下切り捨て・以下同様、同観測地点から震央³までの距離は26キロメートル）をもたらし、6か所の観測地点で700ガル以上の地震動が観測され（うち一番低い715ガルを観測した地点と震央までの距離は22キロメートル）、200ガル以上の地震動を観測した地点は27箇所（うち一番低い200ガルを観測した地点と震央までの距離は48キロメートル）であった（甲第75号証の1）。

同地震はM6.7にしかすぎず、M7以上の地震である「大地震」ではなく「中地震」に分類される地震でしかない。M8～9が想定される南海トラフ地震はM6.7の1000倍のエネルギーを有するM8.7になることさえ想定できるのである。

- ② 本年2月13日の福島県沖地震は、M7.3、震源の深さ55キロメートルであった。建物への被害、人的被害は限定的であったものの、最大加速度1432ガル（同観測地点の震央までの距離は75キロメートル）をもたらした。そして、2か所の観測地点で700ガル以上の地震動が観測され（うち一番低い767ガルを観測した地点と震央までの距離は106キロメートル）、200ガル以上の地震動を観測した地点は73箇所（うち一番低い200ガルを観測した地点から震央までの距離は130キロメートル）であった（甲第75号証の2）。

福島県沖地震の地震規模は南海トラフ地震の地震規模よりも遥かに小さく、海域で起きた上に、震源も40キロメートルより深いにも関わらず極

² https://www.kyoshin.bosai.go.jp/kyoshin/docs/kyoshin_index.html データの取得方法は、「地震検索&ダウンロード欄」を開き、当該地震をその発生日、マグニチュード等で特定してクリックすれば、各観測地点の地震動（ガル）が高い順に表示される。以下断らない限り同様の取得方法による。

³ 震央とは地震が発生した地点（震源）の真上に当たる地表または海面の点をいう。

めて広範囲にわたって200ガル以上の地震動を及ぼしている。

- ③ 本年3月20日の宮城県沖地震は、M7.2、震源の深さ60キロメートルであった。建物への被害、人的被害は限定的であったものの、最大加速度747ガル（同観測地点の震央までの距離は41キロメートル）をもたらした。そして、2か所の観測地点で700ガル以上の地震動が観測され（うち一番低い717ガルを観測した地点と震央までの距離は96キロメートル）、200ガル以上の地震動を観測した地点は27箇所（うち一番低い208ガルを観測した地点から震央までの距離は98キロメートル）であった（甲第75号証の3）。

この地震規模は南海トラフ地震の地震規模よりも遥かに小さく、海域で起きた上に、震源も40キロメートルより深いにもかかわらず広範囲にわたって200ガル以上の地震動を及ぼしている。

(4) プレート間巨大地震との対比

南海トラフ地震はプレート間地震で巨大地震に分類される。

2000年以後における震度5弱以上を記録した地震のうちプレート間地震で巨大地震に分類されるM7.8以上の地震は、④2003年9月26日の十勝沖地震、⑤2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震及び⑥2015年5月30日の小笠原諸島西方沖の地震の3つであるが、いずれも海域で起きた地震である（別紙1-1No.4、No.13、別紙1-2参照）。

- ④ 2003年9月26日の十勝沖地震は、M8.0、震源の深さ42キロメートルで、襟裳岬の東方約80キロメートルを震央とする地震であったが、最大加速度988ガル（同観測地点から震央までの距離は84キロメートル）をもたらした。そして、3か所の観測地点で700ガル以上の地震動が観測され（うち一番低い800ガルを観測した地点と震央までの距離は120キロメートル）、200ガル以上の地震動を観測した地点は56箇所（うち一番低い202ガルを観測した地点から震央までの距離は244キロメートル）であった（甲第75号証の4）。

震源の深さは債務者が想定する南海トラフ地震の震源の深さ41キロメートルとほとんど差はないが、十勝沖地震の場合には陸上の観測地点まで相当の距離減衰があったはずであるが、それにもかかわらず上記の各地震動が観測されている。

南海トラフ地震は十勝沖地震のM8を上回るM9も想定されているのであり、M9はM8の約3.2倍のエネルギーを有する。

- ⑤ 2011年3月11日東北地方太平洋沖地震はM9.0、震源の深さは24キロメートルと債務者が想定する南海トラフ地震の震源の深さ41キロメートルよりは浅いものの、牡鹿半島の東南東約130キロメートルの沖合で発生した。最大加速度2933ガルの地震動をもたらした（同観測地点から震央までの距離は175キロメートル）、34箇所の地点で700ガル以上の地震動を記録し（うち一番低い741ガルを観測した地点と震央までの距離は156キロメートル）、200ガル以上の地震動を観測した地点は183箇所（うち一番低い200ガルを観測した地点から震央までの距離は243キロメートル）であった。また、震央から388キロメートルの距離にある新宿の観測地点においても202ガルを記録している（甲第75号証の5）。

そして、福島第一原発のある大熊町の観測地点において880ガルの地震動をもたらした。また、福島第一原発の解放基盤表面において675ガルの地震動をもたらした（甲第5号証・200頁「2.2.1東北地方太平洋沖地震による福島第一原発の地震動」の「3）敷地基盤の地震動」の「a.1～4号機側では基準地震動を超えた」）、女川原発においても解放基盤表面において当時の基準地震動580ガルを超える地震動が観測された（甲第30号証）⁴。更に、極めて広範囲にわたって10メートルを

⁴ 東北地方太平洋沖地震は牡鹿半島東南東130キロメートルを震源としているにもかかわらず、福島第一原発においても女川原発においても、おおむねせん断波速度 $V_s = 700 \text{ m/s}$ 以上の硬質地盤であるとされる解放基盤表面（基準地震動及び耐震設計方針に係る審査ガイド（甲第51号証）I.1.3(1)）において、181ガルを遥かに超える地震動が観測されたことになる。

超える津波を引き起こしたのである。その津波を引き起こした海底での地震動に匹敵する地震動が地上を直接襲った場合の地震動は果たしていかほどであろうか（乙第41号証の20頁参照）。

- ⑥ 2015年5月30日小笠原諸島西方沖の地震はM8.1の巨大地震であったが、震源の深さは682キロメートルに及び債務者が想定する南海トラフ地震の震源の深さ41キロメートルの1.5倍を超えている。小笠原諸島西方沖地震においては、極めて大きな距離減衰があったにもかかわらず震央までの距離が750キロメートルの地点で最大加速度1.82ガルが記録されている（甲第75号証の6）。

5 地震観測記録の分析等

(1) 各地震の分析

幸いにも、少なくとも近代（明治以後）において陸域を震源とするプレート間巨大地震はなかったため、国民の誰も直下で起きたプレート間巨大地震を経験したことはない。このような巨大地震の地震動については、上記①ないし⑥の各地震とりわけ④ないし⑥の地震記録等に即して考えるしか方法がない。仮に、プレート間巨大地震が海域ではなく陸域で起きればその真上の地表にもたらされる地震動は①ないし⑥で記録されたいずれの最高地震動をも超える地震動が記録されることが予想でき、想像するだけに恐ろしい地震動をもたらす可能性が高い。少なくともその可能性は否定しようがないと思われる。

債務者の基準地震動策定の手法は複雑であるが、そのような複雑な過程を経て導き出された答えだからこそ、検算の必要性が高くなるといえる（われわれが学校で学んだことである）。上記6つの地震に係る記録は複雑な過程を経た答えの妥当性を検証する最も有力で簡明な手段であり、いわば簡便な検算の資料である。

上記①から⑥の各地震のどの地震からみても、債務者の「南海トラフ巨大

地震が起き、その強震動生成域を伊方原発敷地直下に置いたとしても、震源までの深さや本件原発敷地の特性から考えて解放基盤表面における地震動は「181ガルにとどまる」との主張は現実離れしたもので到底首肯しがたい。例えば、南海トラフ地震の地震規模は東北地方太平洋沖地震に匹敵するものになることも考え得るが、宮城県牡鹿半島の東南東約130キロメートルで起き、そこから388キロメートル離れた新宿で200ガル以上の地震動をもたらした地震に匹敵する地震が起きて、その直上の地表面において181ガルの地震動しかもたらさないということが果たしてありうるであろうか。

最大地震動が200ガルを超える地震は前記のように170回を超える。そして、その170回のうちで例えば最大地震動が1000ガルを超える地震においてはその観測地点を中心に200ガルを超える地震動が広い範囲の多くの観測地点で観測されることになる。そのことから、最大地震動が200ガル以上を記録した地震は170回余であるが、200ガル以上の地震動が観測された観測地点は極めて多数である。①ないし⑥の各地震に限定しても合計366箇所、200ガル以上の地震が観測されている。170回余の地震において200ガル以上の地震が観測された観測地点の数の総計は地道にデータを検索すれば調査できるが、途中で断念せざるを得ないほど多数である。なお、K-NE T関係の観測地点は全国で1700箇所余りである（甲第26号証、同データベース概要欄の「強震観測網（K-NE T, K i K - n e t）について」欄）。

上記からすると、200ガルという地震動は我が国の地震記録においてごく平凡な地震動にすぎないということが分かる。債務者の主張は、国民が最も恐れ警戒しなければならないとされている南海トラフ地震が直下で起きても、伊方原発の敷地に限ってはまるでそこだけが特別な空間であるがごとき現象が生じると言っているに等しいのである。そして債務者は、その現象を、震源の深さが41キロメートルであること及び伊方原発周辺の地盤特性、地域特性で説明しようとして試みているのである。しかし、震源の深さ41キロメ

ートルが特に深い地震とはいえないことは既に指摘したとおりである。また、本件原発の地盤特性、地域特性とこれまで200ガルを超える地震動が観測された極めて多数の観測地点の地盤特性、地域特性との共通性については債権者らにおいて主張立証すべき事柄ではない⁵。

上記の南海トラフ地震に係る181ガルという債務者の主張する数値は、観測記録という客観的資料に目を向けることなく、ひたすら仮説と推測の世界に埋没したことにより算出されたものと言わざるを得ない。

観測記録という客観的な数値に照らして債務者の地震動想定の合理性の有無を検証するという最も基本的で最も科学的な手法によって、債務者の主張する181ガルという地震動は全く合理性に欠けることが明らかになった。

(2) 規制基準の合理性、審査過程における過誤・欠落について

現在の規制基準は、①将来にわたって当該原発を襲う地震動の上限（基準地震動を超える地震が絶対ないとはいえないが、まず来ないといえるもの）を精度高く予測することが可能であるという基本的な立場をとった上、②専門技術知識に基づく複雑な計算過程を経て基準地震動を算定するという枠組みをとっている。

上記のように南海トラフ地震に係る債務者の181ガルという地震動想定に全く合理性がないことは、①の基本的な立場か、②の計算過程のいずれかに根本的な誤りがあることを如実に示している。したがって、本件仮処分申立事件において債権者らが②の計算過程にどのような誤りがあったかを示す必要はないのである（従来の訴訟においては、②の計算過程にどのような誤りがあったのかが主たる争点となっていた。）。

そして、債務者の地震動想定が大きく誤っているにもかかわらずこの誤りが原子力規制委員会の審査において見過ごされてきたことは、原子力規制委

⁵ 原発差止め訴訟における主張立証責任については説が分かれているが、原告において具体的な危険性を立証すべきだという説においても、4項の注記に述べた立証を超えて、更に地盤特性、地域特性についての立証を原告に求める説は皆無であろうと思われる。

員会の審査に看過しがたい誤りがあることを示している。債権者らの「観測記録という客観的資料を重視すべき」という主張は、基準地震動及び耐震設計方針に係る審査ガイド（甲第51号証）I5.2(4)項の「基準地震動は、最新の知見や震源近傍等で得られた観測記録によってその妥当性が確認されていることを確認する」との規定にも沿うものである。この規定は、債務者が想定した地震動と観測記録とを対比するという検証方法を執ることを求めていることにほかならない。この規定の「最新の知見」とは南海トラフ地震の強震動生成域が伊方原発直下にも想定され得るという債務者も自認している知見にほかならない。また、この規定の「震源近傍等」の「等」とは広く我が国におけるという意味と解すべきことになる。なぜなら、南海トラフ地震のようなプレート間巨大地震は低頻度であることに照らすと、想定する震源の近傍で得られた信頼できる観測記録は存在しないからである⁶。

原子力規制委員会は、この重要な規定である基準地震動及び耐震設計方針に係る審査ガイド5.2(4)項の「基準地震動は、最新の知見や震源近傍等で得られた観測記録によってその妥当性が確認されていることを確認する」をないがしろにし、債務者が想定した地震動を観測記録という客観的な数値に照らしてその合理性を検証するという基本的かつ科学的な手法を執ることを怠ったものといえる。これは審査の過程における看過しがたい過誤、欠落にほかならない。この看過しがたい過誤、欠落によって、債務者の地震想定が現在に至るまで見過ごされたままとなっている。

⁶ 前記のように、推進本部も南海トラフ全体を1つの領域として考え、この領域では大局的に100～200年で繰り返し地震が起きていると仮定するのが相当との見解を示している。これに対し、我が国で地震観測網が整備完成したのは2000年ころであり、正確な地震記録は20年分しかないのである。

(3) 本件原発の基準地震動の合理性について

新規制基準は、(ア)敷地ごとに震源を特定して策定する地震(イ)震源を特定せず策定する地震動に分類し、(ア)において更に①内陸地殻内地震、②海洋プレート内地震、③プレート間地震のそれぞれについて地震動を算定し、①ないし③で求められた各地震動及び(イ)で求められた地震動のうち、最大のものを基準地震動とするという基本的枠組みをとっている⁷。

①ないし③の数値のうち最大の数値を基準地震動とするのであるから、①ないし③の各地震動の算定のいずれもが合理的なものでない限りは、求められた基準地震動は合理性、信頼性に欠けるということになる。

その理由は以下のとおりである。例えば、①の内陸地殻内地震の類型で求められた加速度に係る数値が一番高いとして基準地震動が定められた場合(伊方原発の基準地震動650ガルはこれに当たる)において、仮に①の地震類型による算定結果には信頼性があったとしても、②又は③の地震類型による算定結果に信頼性がなければ、②又は③の地震類型による実際の地震動が①の地震類型による地震動の算定結果を上回る可能性が否定できなくなるからである。したがって、債権者らにおいては、①ないし③の各地震類型のいずれかの類型についてその地震想定が合理性、信頼性に欠けることを主張立証すればそれで足りるはずである。

本件においては、③のプレート間地震に属する南海トラフ地震のもたらす地震動が181ガルを容易に超えることは見やすいところであり、基準地震

⁷ 基準地震動及び耐震設計方針に係る審査ガイド(甲第51号証)、実用発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則の解釈(甲第76号証)別記2第4条5は、(ア)敷地ごとに震源を特定して策定する地震、(イ)震源を特定せず策定する地震動に分類し、(ア)において更に①内陸地殻内地震、②海洋プレート内地震、③プレート間地震のそれぞれについて地震動地震動の分類をすることを予定しており、原子力規制委員会の審査実務において最大の地震動が基準地震動とされている。債務者の認否は明確ではないが、答弁書284～285頁の「基準地震動が本件原発の敷地に到来しうる最大の地震動である」という記載は債権者らの主張を認める趣旨と解することができる(答弁書284頁)。

動とされている650ガルという数字でさえ超過することが容易に想定できるのである。したがって、③の地震類型（プレート間地震である南海トラフ地震による地震動）についての地震想定が信頼性に欠けることが主張立証できたことになる。そのことによって、上記のとおり、本件原発の650ガルという基準地震動もその信頼性を失うことになる。

(4) 結論

前記(3)の地震類型の③のプレート間地震である南海トラフ地震による地震動が181ガルにとどまるとの債務者の主張は、過去の地震記録という客観的かつ科学的証拠に照らすと非科学的であり合理性に欠けることになる。

いずれかの地震動における最高値をとるというシステムは、A、B、C3人のなかで一番体重の重い者を選ぶ場合に例えることができ、その場合には3人それぞれの体重測定が正確で信頼できるものでなければならないということになる。3人の中の一人でもその体重測定が信頼できない場合には、3人の中から一番体重の重い者を選ぶということは不可能となる。仮に、Aが一番体重が重いとされていてもそれを信頼することはできないのである。したがって、③の南海トラフ地震による地震動が181ガルにとどまるとの地震動想定が不合理である以上、①の地震動想定に基づく基準地震動も非科学的で合理性に欠けるものといわざるを得ないことになる。

伊方最高裁判決の示した判断基準に従えば、「伊方原発の基準地震動を650ガルとするという原子力規制委員会の判断は誤りであり、その原因は基準地震動及び耐震設計方針に係る審査ガイドI5.2(4)項（「基準地震動は、最新の知見や震源近傍等で得られた観測記録によってその妥当性が確認されていることを確認する。」）をないがしろにするという審査の過程における看過しがたい過誤、欠落があったからである」ということができる。

基準地震動は原発の安全確保の要である。基準地震動650ガルを超える地震は来ないことを信頼して本件原発の運転を認めることはとてつもない危険を容認することにほかならないのである。

直ちに運転停止を命じるべきである。

以 上

別紙 1 - 1

2000年以後の700ガル以上の加速度を記録した主な地震
(本震に限る。但しNo.21は前震とされている。)

No. 1	2000年10月6日	鳥取県西部地震 (別紙2のNo.2)	M7.3
		最大震度6強	1142ガル
No. 2	2001年3月24日	芸予地震	M6.7
		最大震度6弱	853ガル
No. 3	2003年5月26日	宮城県沖	M7.1
		最大震度6弱	1571ガル
No. 4	2003年9月26日	十勝沖地震	M8.0
		最大震度6弱	1091ガル
No. 5	2004年10月23日	新潟県中越地震	M6.8
		最大震度7	1750ガル
No. 6	2004年11月29日	釧路沖地震	M7.1
		最大震度5強	879ガル
No. 7	2004年12月14日	留萌支庁南部地震 (別紙2のNo.13)	M6.1
		最大震度5強	1176ガル
No. 8	2007年3月25日	能登半島地震	M6.9
		最大震度6強	945ガル
No. 9	2007年7月16日	新潟県中越沖地震	M6.8
		最大震度6強	813ガル
No.10	2008年6月14日	岩手宮城内陸地震 (別紙2のNo.1)	M7.2
		最大震度6強	4022ガル
No.11	2008年7月24日	岩手県沿岸北部地震	M6.8
		最大震度6弱	1186ガル

No.12	2009年12月18日	伊豆地震	M5.1
		最大震度5弱	703ガル
No.13	2011年3月11日	東北地方太平洋沖地震	M9.0
		最大震度7	2933ガル
No.14	2011年3月12日	長野県北部震(別紙2のNo.3)	M6.7
		最大震度6強	804ガル
No.15	2011年3月15日	静岡県東部地震(別紙2のNo.9)	M6.4
		最大震度6強	1076ガル
No.16	2011年3月19日	茨城県北部地震(別紙2のNo.11)	M6.1
		最大震度5強	1084ガル
No.17	2011年7月5日	和歌山県北部地震(別紙2のNo.16)	M5.5
		最大震度5強	1084ガル
No.18	2012年3月10日	茨城県北部地震(別紙2のNo.15)	M5.4
		最大震度5弱	826ガル
No.19	2013年2月2日	十勝地方南部地震	M6.5
		最大震度5強	733ガル
No.20	2013年2月25日	栃木県北部地震(別紙2のNo.12)	M6.3
		最大震度5強	1300ガル
No.21	2016年4月14日	熊本地震	M7.3
		最大震度7	1580ガル
No.22	2016年6月16日	北海道内浦湾地震	M5.3
		最大震度6弱	976ガル
No.23	2016年10月21日	鳥取県中部地震	M6.6
		最大震度6弱	1494ガル
No.24	2016年12月28日	茨城県北部地震	M6.3
		最大震度6弱	886ガル

No.25	2018年6月18日	大阪府北部地震	M6.1
		最大震度6弱	806ガル
No.26	2018年9月6日	北海道胆振東部地震	M6.7
		最大震度7	1796ガル
No.27	2019年6月18日	山形県沖地震	M6.7
		最大震度6強	1191ガル

注記

M及び最大震度は気象庁震度データベースによる。

最大加速度について、No.4，27は気象庁震度データベースの「主な地震の強震観測データ」により、No.4，27以外はK-NETのデータベース（特集・過去の大きな地震）によっている*。

* 気象庁，K-NET等の最大加速度が必ずしも一致していないのは，気象庁の地震観測地点，K-NETの観測地点，地方自治体の観測地点等が別個であるためである。

別紙1-2

2000年以降の震度5弱以上を記録した地震（前震，余震を含む）

注記 右端の欄は，K-NE Tのデータベース（特集・過去の大きな地震）に同データベースから得たガル数を加えたものである＊

地震発生時刻	震央北緯	震央東経	震源深さ	マグニチュード	地震名	最大加速度 (ガル)
2019/12/12 -01:09	45.10N	141.88E	007km	M4.2	宗谷地方北部の地震	192
2019/08/04 -19:23	37.71N	141.63E	045km	M6.4	福島県沖の地震	246
2019/06/18 -22:22	38.61N	139.48E	014km	M6.7	山形県沖の地震	653
2019/05/10 -08:48	31.80N	131.97E	025km	M6.3	日向灘の地震	207
2019/02/21 -21:22	42.77N	142.00E	033km	M5.8	胆振地方中東部の地震	560
2018/10/05 -08:58	42.59N	141.97E	031km	M5.2	胆振地方中東部の地震	402
2018/09/06 -03:08	42.69N	142.01E	037km	M6.7	平成30年北海道 胆振東部地震	1796
2018/06/18 -07:58	34.84N	135.62E	013km	M6.1	大阪府北部の地震	806
2018/04/14 -04:00	43.17N	145.74E	053km	M5.4	根室半島南東沖の地震	270

地震発生時刻	震央北緯	震央東経	震源深さ	マグニチュード	地震名	最大加速度 (ガル)
2018/04/09 -01:32	35.18N	132.59E	012km	M6.1	島根県西部の地震	676
2017/10/06 -23:56	37.09N	141.16E	053km	M5.9	福島県沖の地震	232
2017/07/11 -11:56	31.38N	130.62E	010km	M5.3	鹿児島湾の地震	541
2017/07/02 -00:58	33.00N	131.24E	011km	M4.5	熊本県阿蘇地方 の地震	320
2017/07/01 -23:45	42.79N	141.86E	027km	M5.1	胆振地方中東部 の地震	334
2017/06/25 -07:02	35.87N	137.59E	007km	M5.6	長野県南部の地震	599
2017/02/28 -16:49	37.51N	141.37E	052km	M5.7	福島県沖の地震	234
2016/12/28 -21:38	36.72N	140.57E	011km	M6.3	茨城県北部の地震	886
2016/11/22 -05:59	37.35N	141.60E	025km	M7.4	福島県沖の地震	256
2016/10/21 -14:07	35.38N	133.85E	011km	M6.6	鳥取県中部の地震	1494
2016/06/16 -14:21	41.95N	140.99E	011km	M5.3	内浦湾の地震	976
2016/05/16 -21:23	36.03N	139.89E	042km	M5.5	茨城県南部の地震	414

地震発生時刻	震央北緯	震央東経	震源深さ	マグニチュード	地震名	最大加速度 (ガル)
2016/04/29 -15:09	33.26N	131.37E	007km	M4.5	大分県中部の地震	407
2016/04/19 -17:52	32.53N	130.63E	010km	M5.5	熊本県熊本地方 の地震	356
2016/04/18 -20:42	33.00N	131.20E	009km	M5.8	熊本県阿蘇地方 の地震	279
2016/04/16 -16:02	32.70N	130.72E	012km	M5.4	熊本県熊本地方 の地震	191
2016/04/16 -09:48	32.85N	130.84E	016km	M5.4	熊本県熊本地方 の地震	299
2016/04/16 -07:23	32.79N	130.77E	012km	M4.8	熊本県熊本地方 の地震	245
2016/04/16 -07:11	33.27N	131.40E	006km	M5.4	大分県中部の地震	178
2016/04/16 -03:55	33.02N	131.19E	011km	M5.8	熊本県阿蘇地方 の地震	394
2016/04/16 -03:03	32.96N	131.09E	007km	M5.9	熊本県阿蘇地方 の地震	530
2016/04/16 -01:46	32.86N	130.90E	011km	M5.9	熊本県熊本地方 の地震	492
2016/04/16 -01:44	32.75N	130.76E	015km	M5.4	熊本県熊本地方 の地震	145
2016/04/16 -01:25	32.75N	130.76E	012km	M7.3	平成28年(2016年) 熊本地震	1362

地震発生時刻	震央北緯	震央東経	震源深さ	マグニチュード	地震名	最大加速度 (ガル)
2016/04/15 -01:53	32.70N	130.75E	012km	M4.8	熊本県熊本地方 の地震	477
2016/04/15 -00:03	32.70N	130.78E	007km	M6.4	熊本県熊本地方 の地震	606
2016/04/14 -22:07	32.77N	130.85E	008km	M5.8	熊本県熊本地方 の地震	710
2016/04/14 -21:26	32.74N	130.81E	011km	M6.5	平成28年(2016年) 熊本地震	1580
2016/01/14 -12:25	41.97N	142.80E	052km	M6.7	浦河沖の地震	173
2015/07/10 -03:33	40.35N	141.56E	088km	M5.7	岩手県内陸北部 の地震	186
2015/06/04 -04:34	43.49N	144.06E	000km	M5.0	網走地方の地震	252
2015/05/30 -20:24	27.86N	140.68E	682km	M8.1	小笠原諸島西方 沖の地震	183
2015/05/25 -14:28	36.05N	139.64E	056km	M5.5	埼玉県北部の地 震	446
2015/05/13 -06:13	38.86N	142.15E	046km	M6.8	宮城県沖の地震	399
2015/02/17 -13:46	40.09N	142.11E	050km	M5.7	岩手県沖の地震	192
2015/02/06 -10:25	33.73N	134.37E	011km	M5.1	徳島県南部の地 震	565

地震発生時刻	震央北緯	震央東経	震源深さ	マグニチュード	地震名	最大加速度 (ガル)
2014/11/22 -22:08	36.69N	137.89E	005km	M6.7	長野県北部の地震	589
2014/09/16 -12:28	36.09N	139.86E	047km	M5.6	茨城県南部の地震	286
2014/09/03 -16:24	36.87N	139.52E	007km	M5.1	栃木県北部の地震	287
2014/07/08 -18:05	42.65N	141.27E	003km	M5.6	胆振地方中東部の地震	371
2014/07/05 -07:42	39.67N	142.13E	049km	M5.9	岩手県沖の地震	192
2014/03/14 -02:07	33.69N	131.89E	078km	M6.2	伊予灘の地震	313
2013/09/20 -02:25	37.05N	140.69E	017km	M5.9	福島県浜通りの地震	426
2013/08/04 -12:29	38.16N	141.80E	058km	M6.0	宮城県沖の地震	397
2013/04/17 -21:03	38.46N	141.62E	058km	M5.9	宮城県沖の地震	564
2013/04/17 -17:57	34.05N	139.35E	009km	M6.2	三宅島近海の地震	347
2013/04/13 -05:33	34.42N	134.83E	015km	M6.3	淡路島付近の地震	586
2013/02/25 -16:23	36.87N	139.41E	003km	M6.3	栃木県北部の地震	1300

地震発生時刻	震央北緯	震央東経	震源深さ	マグニチュード	地震名	最大加速度 (ガル)
2013/02/02 -23:17	42.70N	143.23E	102km	M6.5	十勝地方南部の 地震	733
2012/12/07 -17:18	38.02N	143.87E	049km	M7.3	三陸沖の地震	343
2012/08/30 -04:05	38.41N	141.91E	060km	M5.6	宮城県沖の地震	692
2012/08/25 -23:16	42.33N	143.11E	049km	M6.1	十勝地方南部の 地震	539
2012/05/24 -00:02	41.34N	142.12E	060km	M6.1	青森県東方沖の 地震	185
2012/04/01 -23:04	37.08N	141.13E	053km	M5.9	福島県沖の地震	228
2012/03/27 -20:00	39.80N	142.33E	021km	M6.6	岩手県沖の地震	266
2012/03/14 -21:05	35.75N	140.93E	015km	M6.1	千葉県東方沖の 地震	393
2012/03/10 -02:25	36.72N	140.61E	007km	M5.4	茨城県北部の地 震	826
2012/02/19 -14:54	36.75N	140.59E	007km	M5.2	茨城県北部の地 震	285
2012/02/08 -21:01	37.87N	138.17E	014km	M5.7	佐渡付近の地震	389
2011/11/21 -19:16	34.87N	132.89E	012km	M5.4	広島県北部の地 震	364

地震発生時刻	震央北緯	震央東経	震源深さ	マグニチュード	地震名	最大加速度 (ガル)
2011/11/20 -10:23	36.71N	140.59E	009km	M5.3	茨城県北部の地震	583
2011/09/21 -22:30	36.74N	140.58E	009km	M5.2	茨城県北部の地震	625
2011/09/07 -22:29	42.26N	142.59E	010km	M5.1	日高地方中部の地震	411
2011/08/19 -14:36	37.65N	141.80E	051km	M6.5	福島県沖の地震	277
2011/08/12 -03:22	36.97N	141.16E	052km	M6.1	福島県沖の地震	356
2011/08/01 -23:58	34.71N	138.55E	023km	M6.2	駿河湾の地震	302
2011/07/31 -03:54	36.90N	141.22E	057km	M6.5	福島県沖の地震	497
2011/07/25 -03:51	37.71N	141.63E	046km	M6.3	福島県沖の地震	343
2011/07/23 -13:34	38.87N	142.09E	047km	M6.4	宮城県沖の地震	323
2011/07/05 -19:18	33.99N	135.23E	007km	M5.5	和歌山県北部の地震	1084
2011/06/23 -06:51	39.95N	142.59E	036km	M6.9	岩手県沖の地震	485
2011/04/23 -00:25	37.17N	141.19E	021km	M5.4	福島県沖の地震	376

地震発生時刻	震央北緯	震央東経	震源深さ	マグニチュード	地震名	最大加速度 (ガル)
2011/04/19 -04:14	39.60N	140.39E	006km	M4.9	秋田県内陸南部 の地震	398
2011/04/16 -11:19	36.34N	139.94E	079km	M5.9	茨城県南部の地 震	417
2011/04/13 -10:08	36.91N	140.71E	005km	M5.7	福島県浜通りの地 震	484
2011/04/12 -14:07	37.05N	140.64E	015km	M6.4	福島県中通りの地 震	847
2011/04/11 -20:42	36.97N	140.63E	011km	M5.9	福島県浜通りの地 震	386
2011/04/11 -17:16	36.95N	140.67E	006km	M7.0	福島県浜通りの地 震	746
2011/04/07 -23:32	38.20N	141.92E	066km	M7.1	宮城県沖の地震	1496
2011/04/02 -16:56	36.21N	139.96E	054km	M5.0	茨城県南部の地 震	417
2011/04/01 -19:49	40.26N	140.36E	012km	M5.0	秋田県内陸北部 の地震	344
2011/03/23 -07:36	37.06N	140.77E	007km	M5.8	福島県浜通りの地 震	279
2011/03/23 -07:12	37.08N	140.79E	008km	M6.0	福島県浜通りの地 震	255
2011/03/19 -18:56	36.78N	140.57E	005km	M6.1	茨城県北部の地 震	1084

地震発生時刻	震央北緯	震央東経	震源深さ	マグニチュード	地震名	最大加速度 (ガル)
2011/03/15 -22:31	35.31N	138.71E	014km	M6.4	静岡県東部の地震	1076
2011/03/14 -10:02	36.46N	141.12E	032km	M6.2	茨城県沖の地震	290
2011/03/12 -22:15	37.20N	141.43E	040km	M6.2	福島県沖の地震	355
2011/03/12 -04:32	36.95N	138.57E	001km	M5.9	長野県・新潟県県境付近の地震	415
2011/03/12 -03:59	36.98N	138.60E	008km	M6.7	長野県・新潟県県境付近の地震	804
2011/03/11 -20:37	39.17N	142.62E	024km	M6.7	岩手県沖の地震	363
2011/03/11 -17:41	37.42N	141.32E	027km	M6.1	福島県沖の地震	772
2011/03/11 -16:29	39.03N	142.28E	036km	M6.5	岩手県沖の地震	367
2011/03/11 -14:46	38.10N	142.86E	024km	M9.0	平成23年(2011年) 東北地方太平洋 沖地震	2933
2010/06/13 -12:33	37.40N	141.79E	040km	M6.2	福島県沖の地震	277
2009/12/18 -08:45	34.96N	139.13E	005km	M5.1	静岡県伊豆地方 の地震	703

地震発生時刻	震央北緯	震央東経	震源深さ	マグニチュード	地震名	最大加速度 (ガル)
2009/12/17 -23:45	34.96N	139.13E	004km	M5.0	静岡県伊豆地方 の地震	555
2009/08/11 -05:07	34.78N	138.50E	023km	M6.5	駿河湾の地震	545
2008/09/11 -09:21	41.77N	144.15E	031km	M7.1		111
2008/07/24 -00:26	39.73N	141.63E	108km	M6.8	岩手県沿岸北部 の地震	1186
2008/07/08 -16:42	27.46N	128.55E	045km	M6.1		233
2008/07/05 -16:49	36.64N	140.95E	050km	M5.2		481
2008/06/14 -09:20	38.88N	140.68E	006km	M5.7		785
2008/06/14 -08:43	39.03N	140.88E	008km	M7.2	平成20年(2008年) 岩手・宮城内陸地 震	4022
2008/05/08 -01:45	36.23N	141.61E	051km	M7.0	茨城県沖の地震	188
2008/01/26 -04:33	37.32N	136.77E	011km	M4.8		434
2007/10/01 -02:21	35.23N	139.12E	014km	M4.9		312

地震発生時刻	震央北緯	震央東経	震源深さ	マグニチュード	地震名	最大加速度 (ガル)
2007/07/16 -15:37	37.50N	138.64E	023km	M5.8		235
2007/07/16 -10:13	37.56N	138.61E	017km	M6.8	平成19年(2007年) 新潟県中越沖地 震	813
2007/04/15 -18:34	34.79N	136.42E	017km	M4.6		478
2007/04/15 -12:19	34.79N	136.41E	016km	M5.4		863
2007/03/26 -14:46	37.16N	136.55E	009km	M4.8		409
2007/03/25 -18:11	37.30N	136.84E	013km	M5.3		351
2007/03/25 -09:42	37.22N	136.69E	011km	M6.9	平成19年(2007年) 能登半島地震	945
2006/10/14 -06:38	34.89N	140.30E	064km	M5.1		232
2006/09/26 -07:03	33.51N	131.88E	070km	M5.3		218
2006/06/12 -05:01	33.13N	131.41E	146km	M6.2		206
2006/05/02 -18:24	34.92N	139.33E	015km	M5.1		469

地震発生時刻	震央北緯	震央東経	震源深さ	マグニチュード	地震名	最大加速度 (ガル)
2006/04/21 -02:50	34.94N	139.19E	007km	M5.8		333
2006/03/27 -11:50	32.60N	132.16E	035km	M5.5		218
2005/10/19 -20:44	36.38N	141.04E	048km	M6.3		279
2005/08/21 -11:29	37.30N	138.71E	017km	M5.0		193
2005/08/16 -11:46	38.15N	142.28E	042km	M7.2	宮城県沖の地震	564
2005/07/23 -16:35	35.58N	140.14E	073km	M6.0		213
2005/04/20 -06:11	33.68N	130.29E	014km	M5.8		370
2005/04/11 -07:22	35.73N	140.62E	052km	M6.1		232
2005/03/20 -10:53	33.74N	130.18E	009km	M7.0	福岡県西方沖の 地震	360
2005/02/16 -04:46	36.03N	139.90E	045km	M5.4		344
2005/01/18 -23:09	42.88N	145.01E	050km	M6.4		240
2005/01/18 -21:50	37.37N	139.00E	008km	M4.7		554

地震発生時刻	震央北緯	震央東経	震源深さ	マグニチュード	地震名	最大加速度 (ガル)
2004/12/14 -14:56	44.08N	141.70E	009km	M6.1		1176
2004/12/06 -23:15	42.85N	145.34E	046km	M6.9		447
2004/11/29 -03:32	42.95N	145.27E	048km	M7.1	釧路沖の地震	879
2004/11/10 -03:43	37.37N	139.00E	005km	M5.3		256
2004/11/08 -11:16	37.40N	139.03E	000km	M5.9		323
2004/11/04 -08:57	37.43N	138.91E	018km	M5.2		375
2004/10/27 -10:40	37.29N	139.03E	012km	M6.1		570
2004/10/25 -06:05	37.33N	138.95E	015km	M5.8		471
2004/10/25 -00:28	37.20N	138.87E	010km	M5.3		332
2004/10/24 -14:21	37.25N	138.82E	011km	M5.0		495
2004/10/23 -19:46	37.30N	138.87E	012km	M5.7		469
2004/10/23 -19:36	37.22N	138.82E	011km	M5.3		332

地震発生時刻	震央北緯	震央東経	震源深さ	マグニチュード	地震名	最大加速度 (ガル)
2004/10/23 -18:34	37.31N	138.93E	014km	M6.5		989
2004/10/23 -18:12	37.25N	138.83E	012km	M6.0		359
2004/10/23 -18:03	37.35N	138.98E	009km	M6.3		826
2004/10/23 -17:56	37.29N	138.87E	013km	M6.8	平成16年(2004年) 新潟県中越地震	1750
2004/10/06 -23:40	35.99N	140.09E	066km	M5.7		189
2004/09/05 -23:57	33.15N	137.14E	044km	M7.4	東海道沖の地震	397
2004/08/10 -15:13	39.67N	142.13E	048km	M5.8		190
2004/05/06 -22:43	42.47N	145.12E	043km	M5.7		79
2004/04/14 -11:11	39.34N	140.40E	009km	M3.8		63
2004/02/04 -15:08	40.14N	141.89E	063km	M5.3		150
2003/09/26 -06:08	41.71N	143.69E	021km	M7.1		661
2003/09/26 -04:50	41.78N	144.07E	042km	M8.0	平成15年(2003年) 十勝沖地震	988

地震発生時刻	震央北緯	震央東経	震源深さ	マグニチュード	地震名	最大加速度 (ガル)
2003/09/20 -12:55	35.22N	140.30E	070km	M5.8		118
2003/08/04 -20:57	36.44N	140.61E	058km	M4.9		439
2003/07/26 -07:13	38.40N	141.17E	012km	M6.2	宮城県北部の地震	368
2003/07/26 -00:13	38.43N	141.16E	012km	M5.5	宮城県北部の地震	289
2003/07/20 -02:25	41.46N	140.28E	009km	M4.1		284
2003/05/26 -18:24	38.81N	141.68E	071km	M7.0	宮城県沖の地震	1571
2002/12/05 -00:53	38.72N	142.26E	037km	M4.9		278
2002/11/04 -13:36	32.41N	131.87E	035km	M5.7		268
2002/11/03 -12:37	38.90N	142.14E	046km	M6.1		417
2002/06/14 -11:42	36.22N	139.98E	057km	M4.9		592
2002/05/28 -09:24	34.38N	139.25E	008km	M4.3		276
2002/02/12 -22:44	36.59N	141.08E	048km	M5.5		305

地震発生時刻	震央北緯	震央東経	震源深さ	マグニチュード	地震名	最大加速度 (ガル)
2001/12/09 -05:29	28.25N	129.49E	036km	M5.8		190
2001/12/02 -22:02	39.40N	141.26E	122km	M6.4	岩手県内陸南部 の地震	391
2001/04/27 -02:49	43.02N	145.88E	083km	M5.9		222
2001/04/25 -23:40	32.79N	132.35E	042km	M5.6		259
2001/03/31 -06:09	36.82N	139.39E	008km	M4.9		305
2001/03/24 -15:28	34.12N	132.71E	051km	M6.4	平成13年(2001年) 芸予地震	852
2001/01/10 -19:09	32.81N	131.13E	006km	M3.9		390
2001/01/04 -13:18	36.96N	138.76E	014km	M5.1		422
2000/10/31 -01:43	34.29N	136.34E	044km	M5.5		544
2000/10/18 -12:58	36.92N	139.70E	009km	M4.5		398
2000/10/08 -20:51	35.37N	133.31E	009km	M5.0		128
2000/10/06 -13:30	35.28N	133.35E	011km	M7.3	平成12年(2000年) 鳥取県西部地震	1142

地震発生時刻	震央北緯	震央東経	震源深さ	マグニチュード	地震名	最大加速度 (ガル)
2000/08/29 -11:00	34.38N	139.22E	009km	M4.9		274
2000/07/30 -21:25	33.97N	139.40E	018km	M6.4		209
2000/07/27 -10:49	34.19N	139.29E	012km	M5.6		195
2000/07/24 -17:44	34.37N	139.20E	006km	M4.7		247
2000/07/21 -03:39	36.53N	141.09E	049km	M6.0		322
2000/07/15 -10:11	34.42N	139.25E	005km	M4.4		275
2000/07/15 -05:18	34.41N	139.23E	006km	M3.9		558
2000/07/01 -16:02	34.21N	139.22E	015km	M6.4		233
2000/06/08 -09:32	32.70N	130.75E	010km	M4.8		267
2000/04/01 -03:12	42.51N	140.82E	008km	M4.6		328
2000/01/28 -23:21	42.98N	146.71E	056km	M6.8		415